

# 単元名 「データの特ちょうを調べて判断しよう」 （第6学年 D データの活用）

## ■本事例のポイント

1. 各種データをクラウド上で共有することで、児童自身が解決のために必要と考えたデータで分析できるようにした。
2. 児童同士で考えを共有する活動など、結論の妥当性を批判的に考察する※機会を設けることで、学習調整を促し、深い学びの実現を目指した。

※本事例においては、結論や問題解決の過程が妥当なものであるかどうかを別の観点や立場から検討すること

## ■単元の目標

目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断したり、その妥当性について考察する力を養う。

## ■単元の指導計画（13時間）

### 第1小単元

「問題の解決の進め方」

- ・代表値（平均値・最頻値・中央値）について理解する。
- ・ドットプロットやヒストグラムの読み方、表し方について理解する。

### 第2小単元

「いろいろなグラフ」

- ・既習のグラフを組み合わせたグラフの読み方を理解する。

### 第3小単元

「既習の学習内容を生かした身近な問題解決」

- ・必要なデータを収集・分析し、運動会開催に適した月を考える。

## ■本時の概要

【問題】（第3小単元における問題）

〇〇小にとって運動会開催に適しているのは、何月だろう？説明できる理由も考えよう！

【めあて】

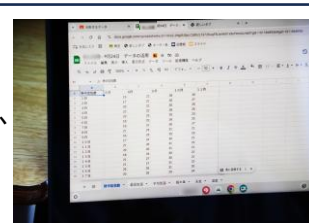
〇〇小の運動会開催に適した月を、根拠を示して伝え合って見直そう。

身近な課題を解決することで、統計的な問題解決のよさを感じさせる！



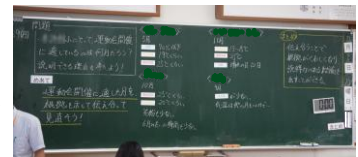
【学習活動の様子】

前時までに自分で判断した問題の結論や、その根拠などを振り返る。



見直した結論やその根拠を、全体で共有。

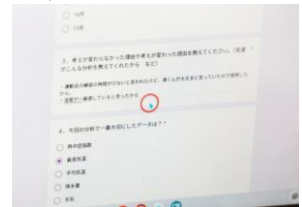
※自分の考えを多様な観点や立場から見直す機会。



各自の結論やその根拠を、グループで共有。  
※自分の考えを別の観点や立場から見直す機会。



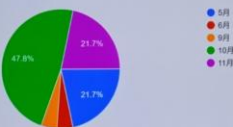
共有したことを踏まえた最終的な結論を、アンケート機能で各自が回答。



## ■ 学習調整をしている子供の姿

### 分析した後のみんなの考え

2. 分析してみて、運動会開催に適している月は？  
23 件の回答



あれ？ 同じ問題で、同じデータを分析したのに考えが違うな…。



## ■ 指導と評価の工夫

### ① 前時までの分析から導いた結論の、クラス内の分布を提示

- \* 自分の考えだけでなく、友達の考えを聞いて見直せば、よりよい考えや理由になることをつかませる導入となる。
- \* 自分の分析の妥当性を考えさせるきっかけとなる。

子供が学習課題を選択・決定する場面

### ② 自分の分析をグループや全体で共有

- \* お互いの分析を伝え合う中で、共通点や相違点を確認でき、自分の考えに自信をもったり、新たな視点を得たりすることができる。
- \* 議論し合うことで、他者の分析の妥当性を批判的に考えることができる。
- \* 全体でいくつかの考え方を発表することで、グループ内の共有では出なかった、より多様な根拠や分析を知ることができる。

### ③ 最終的な結論や学習感想の記入

- \* 結論の根拠や結論が変化した理由を記入することで、本時の学習で得た新たなデータの見方を振り返ることができる。

子供が自らの学習を振り返る場面の設定

他者の考えを捉え、自身の考えの変容を記述したり、自身の考えに付け加えたりすることができた。

ふりかえり  
自分がいいと思っていた月も、裏を見るとデメリットもあり、自分だけではなく、友達の見もしっかりと聞けました。

④ 5月に次いで代表値が安定しているし、練習の時間もたくさんとれるから、10月がいいと思いました。台風シーズンも、過ぎている。一番納得できる考え。

友達の意見を聞き、考えを見直せた！



## ■ 成果 (○) と課題 (▲)

- データを見た際の感覚と経験を結び付けることができていた。「花粉飛散量」や「降水量」など、更に調べてみたいデータを発言する児童もあり、PPDACサイクル※を回すことにつながった。
- ▲ 主観的な経験が先行し、説得力が下がる分析となる児童がいた。丁寧な問い返しを行うことで、すべての児童の多様な表現を、妥当性の高いものとして価値付けることができると考える。

※「問題 - 計画 - データ - 分析 - 結論」というような段階からなる統計的探究プロセス

【活用したアプリや機能】Google スプレッドシート、Google フォーム